

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

生徒会主催の「あいさつ運動」を、年6回実施している。その内3回は校区にある小学校と連携して小学生と一緒に小学校の校門前や通学路に立って行っている。生徒会が朝礼等で全校生徒に呼び掛けてボランティアを募っているが、毎回3割を超える生徒が参加している。あいさつをすることで互いに心地よい気持ちになるとともに、小学生や地域の方ともコミュニケーションが取れる取組として効果的であった。

また、第1学年では学年の中心となる代表委員会が、学年の和を高めるためにはどうしたらよいのかを話し合い、クラス全員が協力して楽しめるレクリエーションを企画した。代表委員会の生徒は会の運営を担い、開会式では分かりやすくルール説明を行ったり、実演して見せたりしてみんなが楽しめる雰囲気を作った。審判を付けずにセルフジャッジでクラス対抗のゲームを行ったが、どちらのクラスもルールを守っていた。課題を達成した時は拍手や歓声が上がり、達成できなかった時は落胆の声こそ出るものの、誰かを責めることはしなかった。そして、全員で課題を確認して次のチャレンジに向け、気持ちをすぐに切り替えていた。どちらのクラスも一喜一憂しながら終始盛り上がり、楽しく取り組んでいた。

今回のレクリエーションは、他者理解を深め、クラスや学年の信頼関係や団結力を高めることや、気持ちを一つにする取組として、効果的であった。



#### 【取組2】(B中学校)

生徒が「できた」、「分かった」、「頑張った」と感じられる授業を全教員が実践している。具体的には、生徒が見通しをもって学習に取り組めるように、めあてや授業の流れを提示したり、生徒が学習内容を調整し、次の学習につなげるための方法を自ら考えられるようにしたり、授業で生徒の考えを発表する機会を作ったりする等、生徒が主体的に授業に取り組むことができるようにすることで、魅力ある授業づくりを推進している。

#### 【取組3】(C中学校)

「生徒が主体的に学習する課題解決型学習の実践」をテーマに、生徒自ら「学習内容と身の周りの生活のつながりを意識したり」、「身近な現象への疑問や学習内容の応用法などを考え、これまでの学びを振り返ったり」と、生涯にわたって学び続けたり、学びを深めたりする姿を目指して研究を進めている。各教員が課題解決型の授業を実践し、互いに授業見学を行い、授業改善に取り組むことで、魅力ある授業づくりを推進している。

## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（A中学校）

毎週1回、定期的に支援会議を行い、校長、副校長、養護教諭、生活指導主任、教務主任、特別支援教育コーディネーター、各学年主任、教育相談員、特別支援教室専門員、特別支援教室巡回教員、不登校対応巡回教員、SC、SSWが参加し、支援の手だてについて協議している。

#### アウトリーチによる支援（B中学校）

不登校傾向にある生徒や体調不良等で欠席が続く生徒への配布プリントや授業教材等は、個別のレターボックスを設置して管理している。担任や学年教員及びSSW、家庭と子供の支援員等が定期的に家庭訪問を行い、生徒や保護者と面会する時に届けている。

#### 校内別室における支援（C中学校）

校内別室では、持参した課題に取り組むのが基本ではあるが、基礎学習用の「漢字のドリルや計算問題、英単語練習」等のプリント及び、各学年で使用している教科書を用意しているため、学習教材を持参していない生徒でも、状況に応じて学習することができる。また、校内別室では3年生の進路学習用に「論作文の手引き」や「面接の受け方及び質問内容」等を作成して支援している。2学期に入ると、利用生徒から学校見学や体験授業に参加した様子を聞くことが多くなり、生徒一人一人の進路希望を確認しながら、担任や学年の教員と連携を取り合って支援している。



#### デジタル機器を活用した支援（B中学校）

長期欠席が続いている生徒に対しては、担任や学年が個別のTeamsを作成してつながり、学校の様子や当面の予定を伝えたり、生徒の様子を確認したりしている。また、長期休業明けの登校ができるか心配される生徒に対しても、休み中に個別のTeamsで連絡を取り合い、登校しやすい雰囲気づくりを行っている。

#### 関係機関との連携（C中学校）

SCやSSWとは、生徒の情報を適宜共有して支援を行っている。また、校内別室を利用する生徒と関わる機会が多いため、校内別室の利用生徒の情報を教員だけでなく、校内別室指導員とも共有し、校内別室での支援を手厚く行うことに役立っている。

### 成果

各校の支援会議に参加して、不登校傾向の生徒について支援の手だてを共有した。また、各巡回校の不登校生徒を支援することができた。

### 課題

不登校生徒が校内別室を利用する割合は32.9%であった。不登校生徒の登校を促すためには、校内別室の魅力も高めていく必要がある。